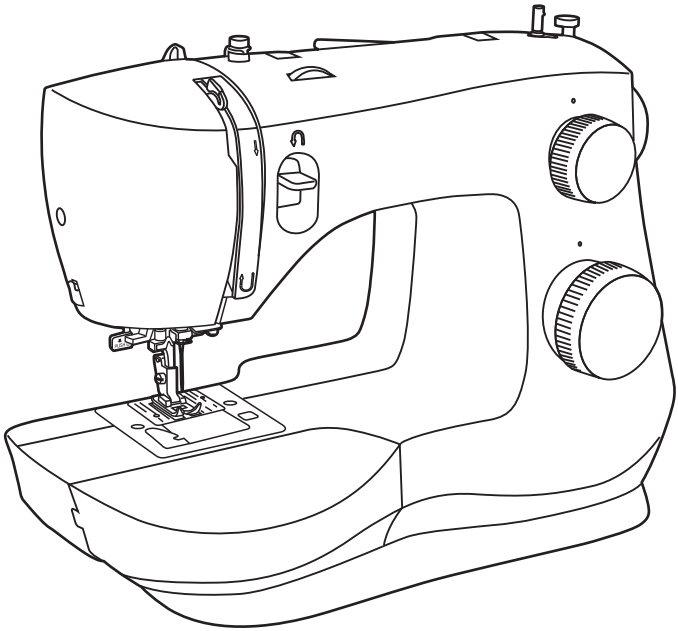
SINGER®

使用の手びき

SN1851シリーズ



このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」を
ご使用の前に必ずお読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末永くご活用ください。

◆ はじめに

このたびは、ミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用ミシンです。

このミシンの特長をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。

「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

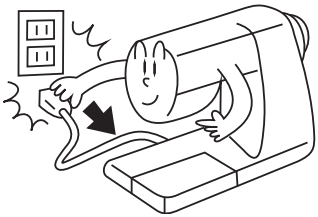
◆ 安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

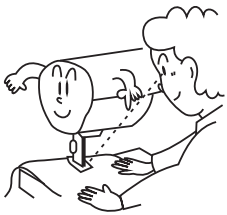
⚠警告：感電、火災の恐れがあります

1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
   - ・ミシンのそばを離れるとき。
   - ・ミシンを使用したあと。
   - ・ミシン使用中に停電したとき。
   - ・接触不良、断線などで正常に作動しないとき。
   - ・雷が鳴りはじめたとき。



⚠注意：感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. お客様自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。
3. ミシンの操作中は、カマカバーなどのカバー類は、必ず閉めてください。
4. 曲がった針、先の痛んだ針はご使用にならないでください。

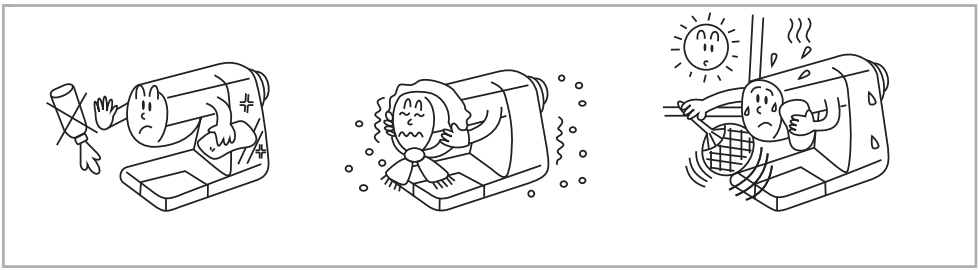


◆ 安全にご使用いただくために

1. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
2. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
3. 以下の事をするときは、電源スイッチを切ってください。
   - ・針、針板、押えを交換するとき。
   - ・「使用の手びき」に記載のあるミシンの手入れをするとき。
   - ・原則として上糸、下糸をセットするとき。
4. ミシンに以下の異常があるときは、すみやかに使用を停止し、購入店にて点検、修理、調整をお受けください。
   - ・正常に動作しないとき。
   - ・落下などにより破損したとき。
   - ・水に濡れたとき。
   - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
   - ・異常な臭い、音がするとき。
5. ミシンを正しく使用するために、安定したテーブルや机に置いてご使用ください。

◆ ミシンの取り扱い

1. シンナーやベンジンなどでふかないでください。
2. 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。保管は、なるべく寒いところをさけてください。
3. 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。



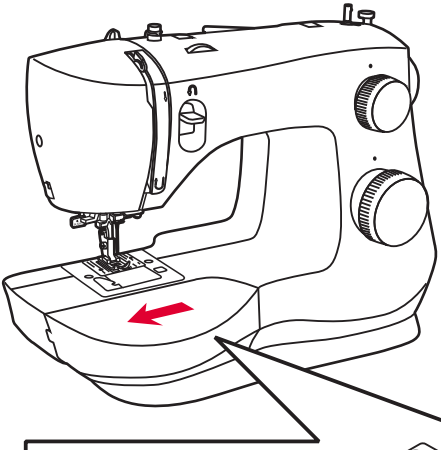
◆ 仕様

型　　式	SN1851ｼﾘｰｽﾞ
定格電圧	100V
消費電力	60W
周波数	50Hz/60Hz
ＬＥＤライト	Max.100mW
寸　　法	幅： 416mm x 奥行：193mm x 高さ：300mm
重　　量	約5.7kg(本体のみ)

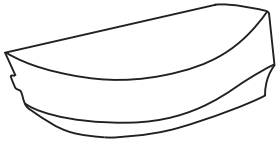
◆ 目　次

はじめに …… 1
安全にご使用いただくために …… 1/2
ミシンの取り扱い / 仕様 …… 3
目次 …… 4
付属品 …… 5
補助テーブル …… 6
各部の名称 …… 7
電源のつなぎ方と始動・停止 …… 8
ボビンの取り出し方 …… 9
下糸の巻き方 …… 10/11
ボビンのセット …… 12
上糸のかけ方 …… 13/14
糸通しの使い方 …… 15
用途によって、下糸を引き上げて使用する際は次のように行います …… 16
針の取り外し方と取り付け方 …… 17
模様の選び方(一般模様の選び方) …… 18/19
模様の選び方(S1/S2模様の選び方) …… 19
上糸調子の合わせ方 / 布地の裏側がタオル地のようになるのは …… 20
押えの取り外し方と取り付け方/押えホルダーの取り外し方と取り付け方/シームガイドの取り付け方 …… 21
押え上げレバー/送りカバープレート/補助糸立棒の使い方 …… 22
直線ぬい …… 23
返しぬい / ぬい方向のかえ方 / 厚地のぬい始め / 段ぬい …… 24
ジグザグぬい/たち目かがり …… 25
飾りぬい …… 26
まつりぬい(ブラインドステッチ) …… 27/28
ボタンホールのぬい方 …… 29/30
ファスナー付け …… 31/32
伸縮強化ぬい …… 33
ボタン付け …… 34
ファゴティング/パッチワーク …… 35
ミシンのお手入れ …… 36
LEDライトの交換 / 布地に適した針と糸の選び方 …… 37
困ったときには …… 38/39
修理サービス要領 …… 40

◆ 付属品

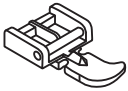


- 補助テーブルは、左方向にスライドさせると本体より取り外せます。
- 付属品は、補助テーブルの中に入っています。

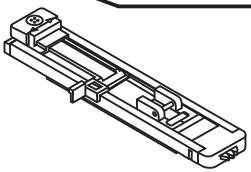


- 開け方は 6 ページの図 2 を参照

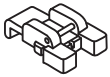
ジグザグ押え
（購入時はミシン本体にセットされています）



ファスナー押え

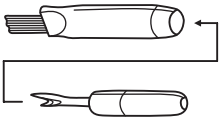


ボタンホール押え



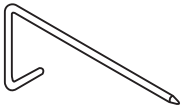
ボタン付け押え

三角ドライバー

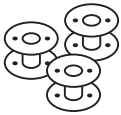


リッパー／ブラシ

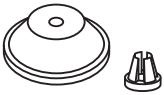
針パック



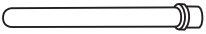
シームガイド



ボビン

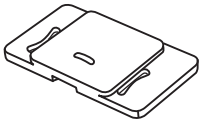


糸コマ押え（大小）
※糸コマが細い時には、（小）を使用してください。



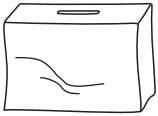
補助糸立棒

糸コマ座

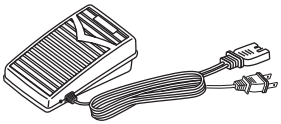


送りカバープレート

使用の手びき

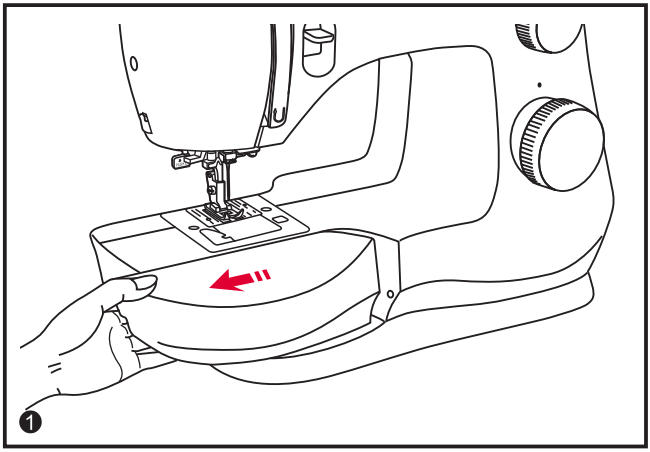


ソフトカバー



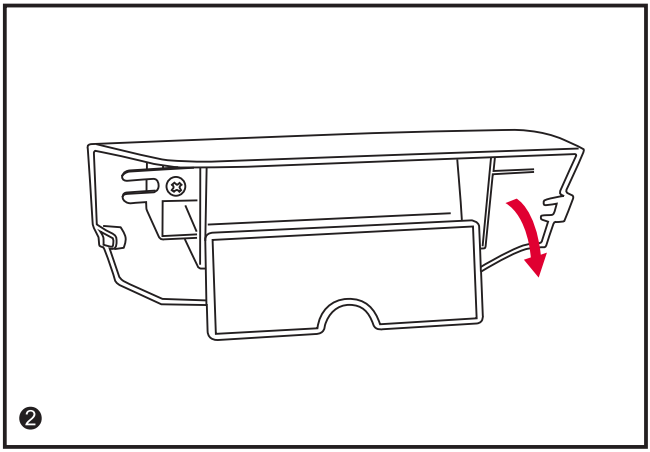
フットコントローラー
（電源コード　一体式）

◆ 補助テーブル



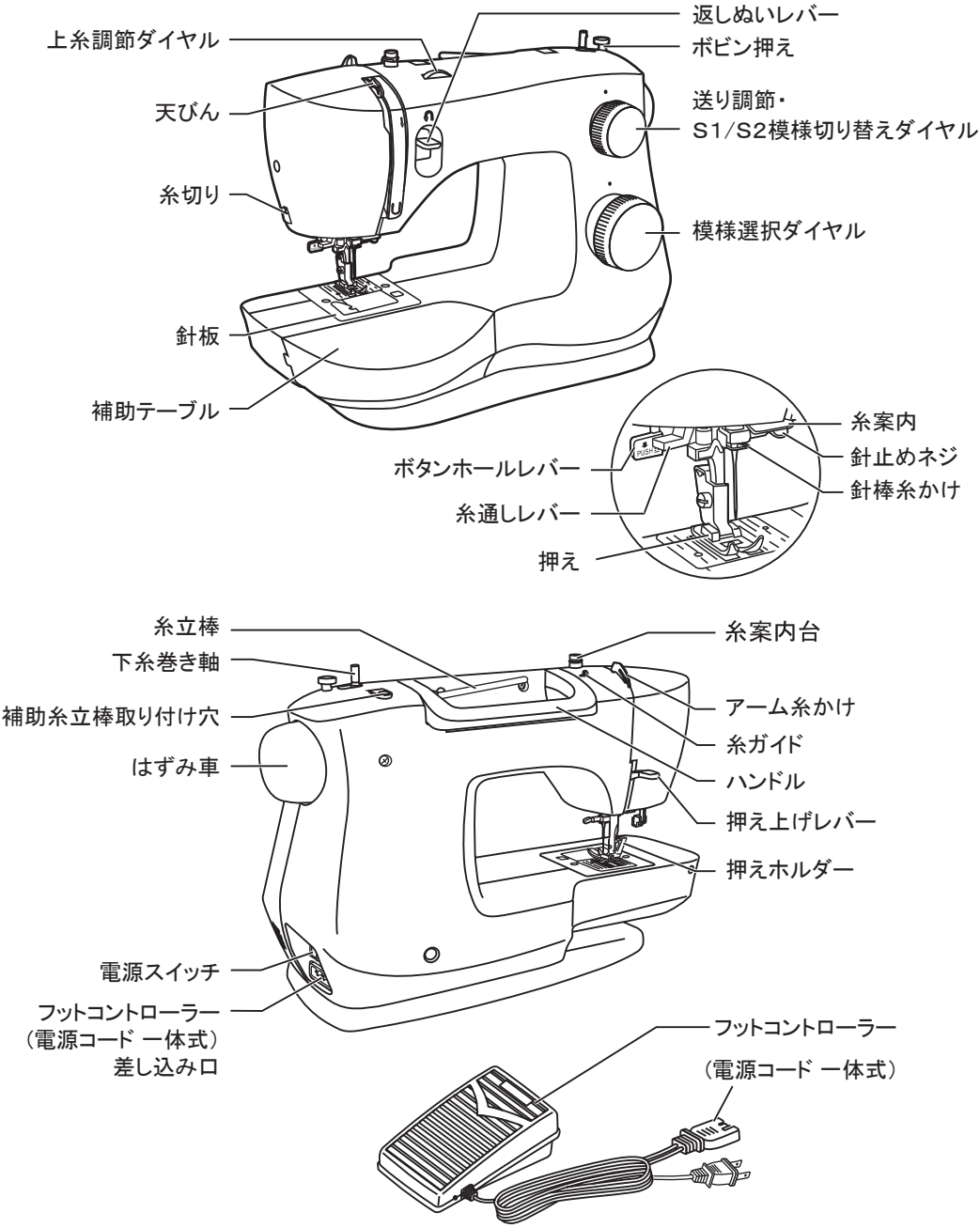
❶ 補助テーブルを外すと、袖口や、裾、袋物をぬうときに利用できるフリーアームになります。

補助テーブルの左端を持って矢印方向に引くと、簡単に外れます。



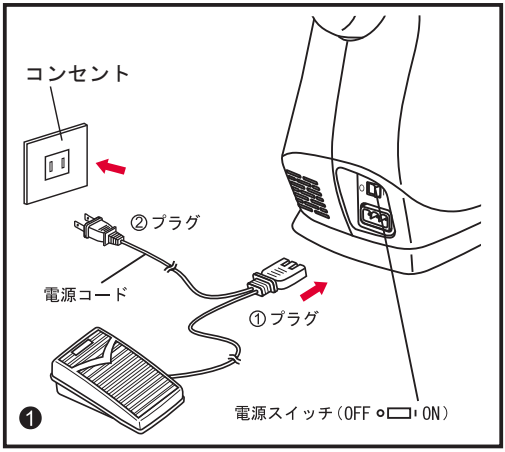
❷ 補助テーブルの内部は、付属品入れになっています。カバーは手前に開きます。

◆ 各部の名称


返しぬいレバー
上糸調節ダイヤル
ボビン押え
天びん
送り調節・
S1/S2模様切り替えダイヤル
糸切り
模様選択ダイヤル
針板
補助テーブル
糸案内
針止めネジ
ボタンホールレバー
針棒糸かけ
糸通しレバー
押え
PUSH
糸立棒
糸案内台
下糸巻き軸
補助糸立棒取り付け穴
アーム糸かけ
糸ガイド
はずみ車
ハンドル
押え上げレバー
押えホルダー
電源スイッチ
フットコントローラー
（電源コード 一体式）
差し込み口
フットコントローラー
（電源コード 一体式）

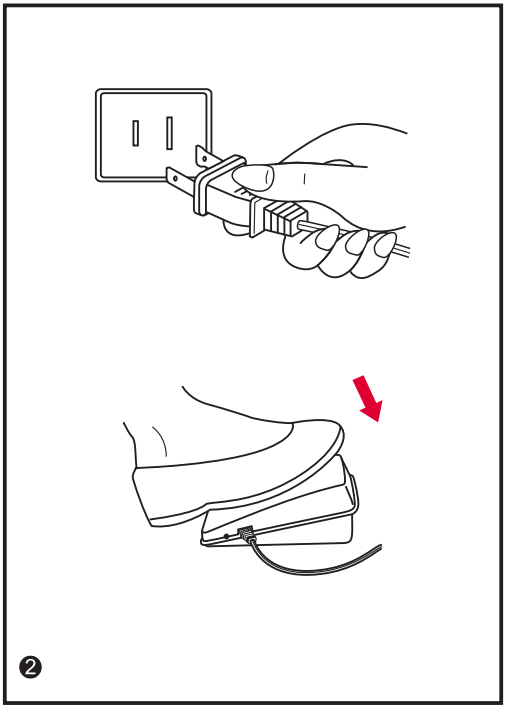
◆ 電源のつなぎ方と始動・停止

⚠警告：感電、火災を防ぐために
電源は必ずプラグを持って 抜き差ししてください。



❶ 電源コードのプラグ①をミシンに、プラグ②を家庭用電源（100V　50/60Hz）コンセントに差し込みます。

電源スイッチを入れると、照明ランプが点灯します。



❷ **ご注意**
ミシンをご使用にならないときには、必ず電源プラグを抜いておいてください。

警告：感電、火災を防ぐために
コントローラーは落としたり、座ぶとんなどの下において使用しないでください。

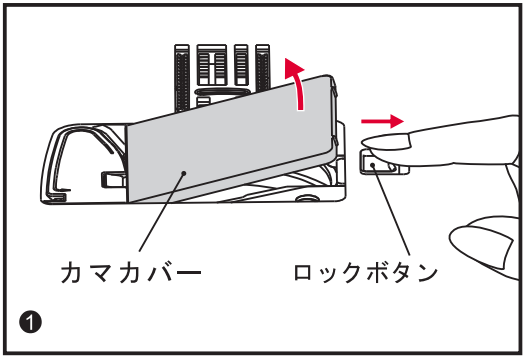
ミシンのスタート・ストップは、フットコントローラーで行います。
フットコントローラーの踏み加減でぬう速度を調節できます。

フットコントローラーの使い方
・軽く踏む：ぬいスピードは遅い
・深く踏む：ぬいスピードは速い

◆ ボビンの取り出し方

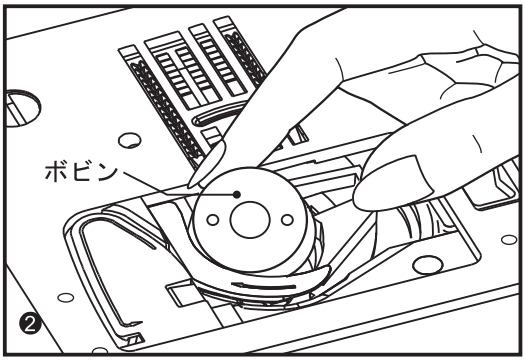
⚠ 注意 :ケガ防止のために

必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



ボビンの取り出しは、カマカバーを開けてから行います。

❶カマカバーの右にあるロックボタンを右へスライドさせると、カマカバーが開きます。



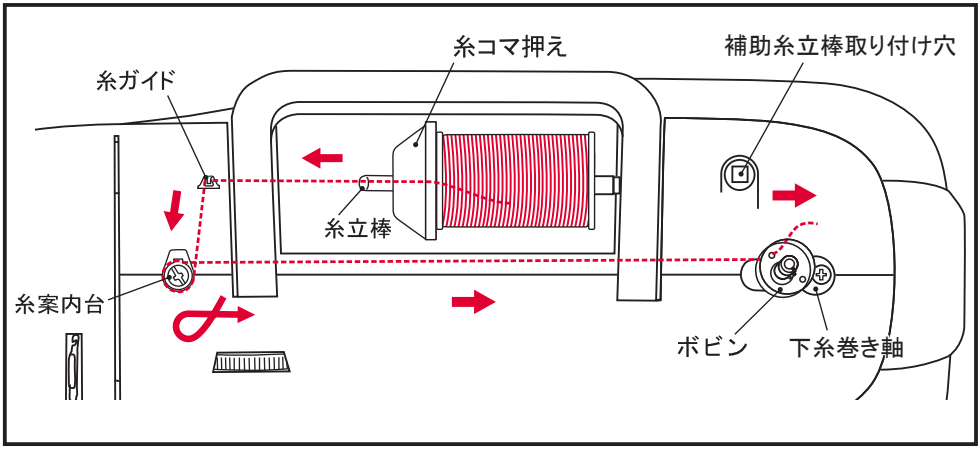
❷カマカバーを外し、ボビンを取り出します。

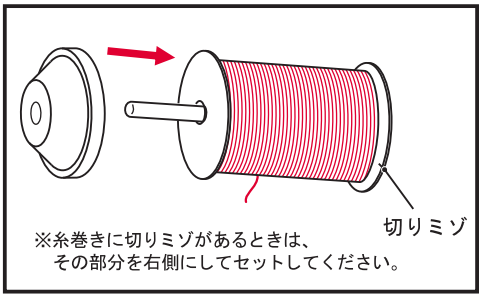
◆ 下糸の巻き方

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

⚠ 注意 :ケガ防止のために

- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、ボビンにきれいに糸が巻けません。
- ボビンは必ず専用ボビン(高さ11. 5mm プラスチック製)を使用してください。専用ボビン以外を使用すると、ミシンが正しく動作しません。ケガ・故障の原因となります。
- ボビンを取り出すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



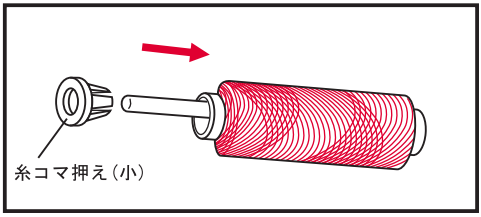


※糸巻きに切りミゾがあるときは、
その部分を右側にしてセットしてください。

糸コマをセットします

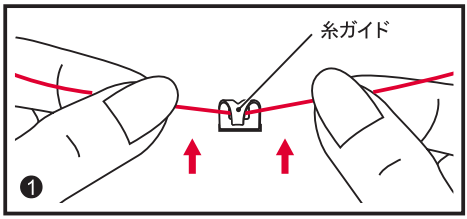
糸立棒を軽く持ち上げ、下側から手前に糸が出る向きにして糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

※小さい糸を使用するときは、
糸コマ押えを裏にして取り付け、糸コマから少し離してセットします。



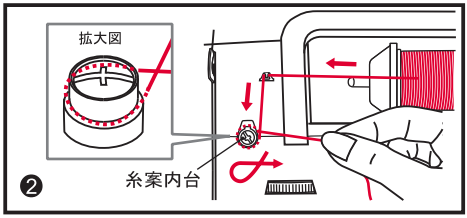
糸コマが細いときには、糸コマ押え(小)をご使用ください。

◆ 下糸の巻き方

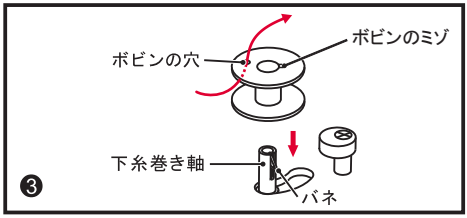


下糸を巻きます

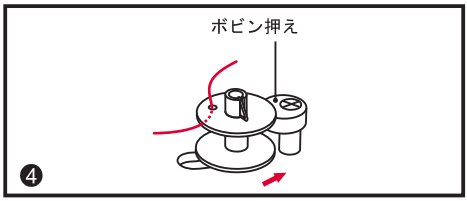
❶ 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの手前から奥に糸を通します。



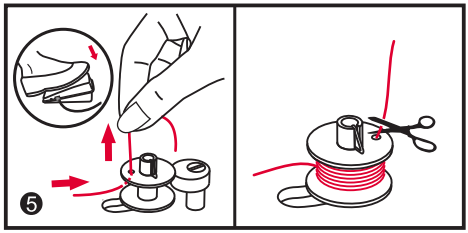
❷ かけた糸の糸はしをさらに引いて、糸案内台の下のすき間に、手前から後ろ(右回り)に糸をかけます。
※正しく糸がかかっていると、糸を右に引いたとき、抵抗感があります。



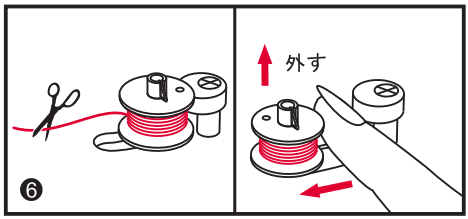
❸ 糸案内台にかけた糸を右に引き出し、ボビンの穴に内から外に通します。
ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせ、ボビンを下糸巻き軸に差し込みます。



❹ 下糸巻き軸にセットしたボビンを右方向にスライドさせボビン押えに押し付けます。



❺ ボビンの表面の穴に入れた糸を、10ｃｍほど引き出し、そのまま糸はしを手で真上の方向に持ちます。
フットコントローラーを軽く踏み巻き始めます。少し糸を巻いたら、いったん止めて、ボビンの上に出ている余分な糸を切ります。その後、再度巻きます。

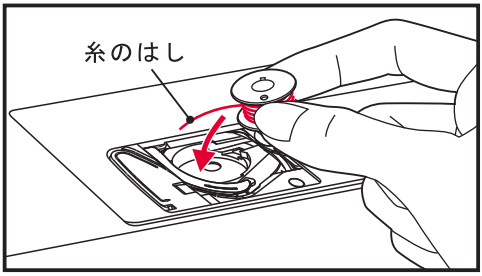


❻ 巻き終わると、ボビンの回転がゆっくりになります。
糸を切り、下糸巻き軸を左に戻してからボビンを取り外してください。

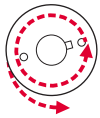
◆ ボビンのセット

⚠ 注意：ケガ防止のために
ミシンを操作する際は、必ずカマカバーを閉めてください。

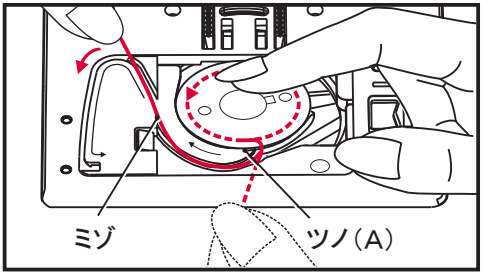
●ミシンへセットします



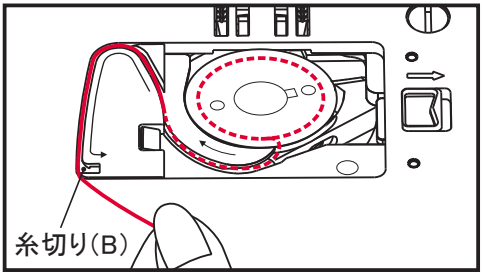
❶ カマカバーを外し、糸のはしを出してカマの中にボビンが左回りになるように入れます。



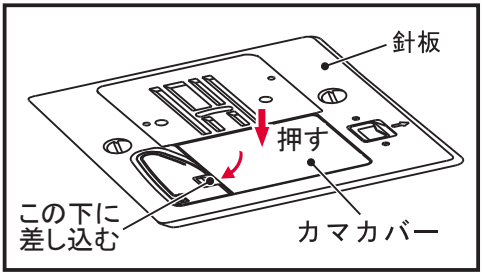
糸の方向



❷ 右手でボビンを軽く押え、左手で糸を引き、手前のツノ（A）の下に引っかけます。
左にギュッと引きながらミゾに沿って、上から下に糸を通します。



❸ （B）の糸切りの位置で糸を右に引き、糸を切ります。



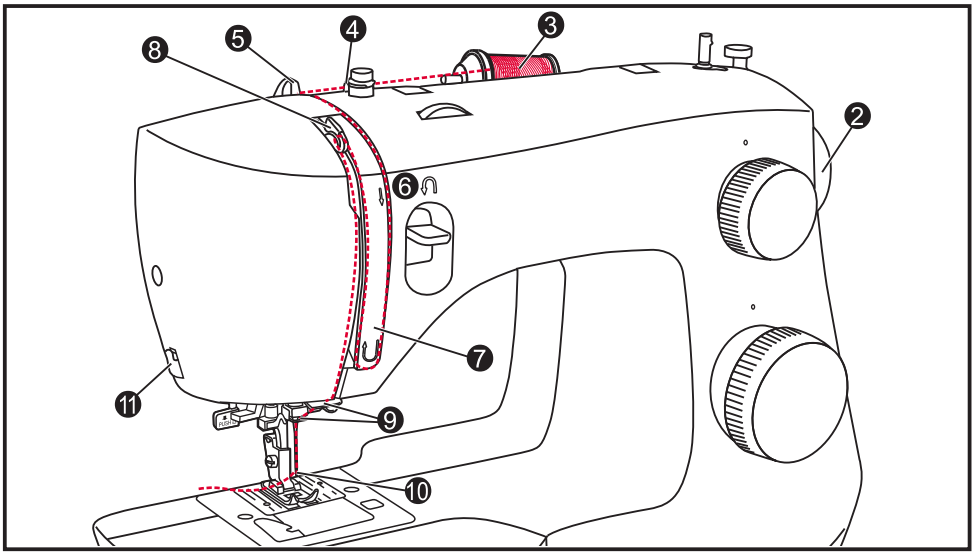
❹ カマカバーの左の突起部分を、針板の下に差し込み、右側を押え、カバーを閉じます。

下糸を引き上げる必要はありません。

◆ 上糸のかけ方

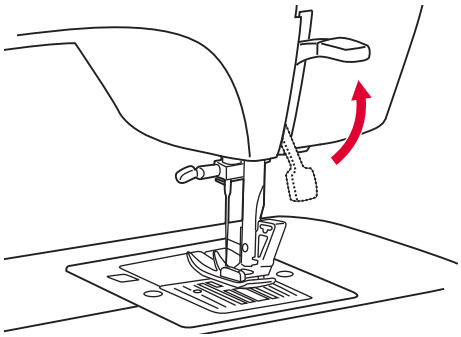
⚠ 注意：ケガ防止のために

必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



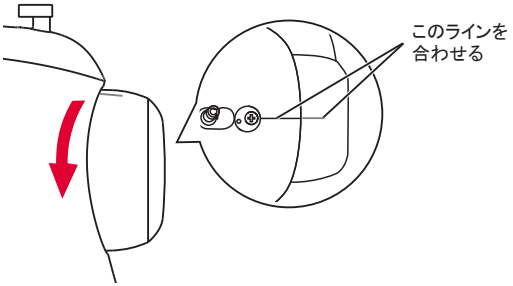
❶

押え上げレバーを上げます。



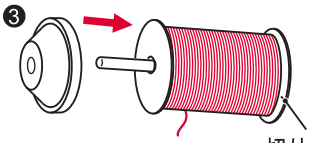
❷

はずみ車を手前に回して、
針上止点ラインを合わせます。



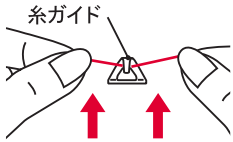
◆ 上糸のかけ方

❸



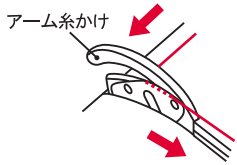
糸コマをセットします。
下側から手前に糸が出る向きにして、糸コマを糸立棒にセットし、糸コマ押えで糸コマを押えます。
※糸コマが細い場合には、糸コマ押え（小）を使用してください。

❹



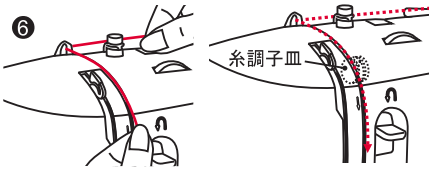
糸ガイドに手前から奥に糸を通します。

❺



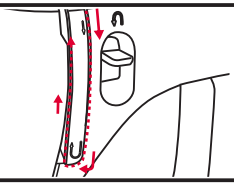
アーム糸かけに後ろから手前に糸をかけます。

❻



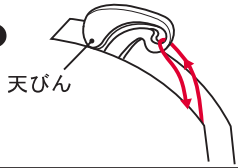
右側の糸道に糸を引きおろし、糸を両手で持ち、糸調子皿の間に通します。
※糸調子皿はミシン内部の部品ですので外からは見えません。

❼



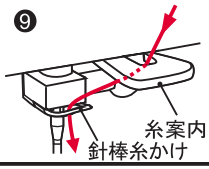
矢印にそって、右から左に糸を引き上げます。

❽

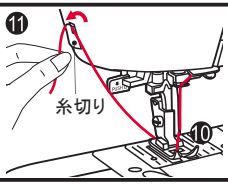


天びんの右から後ろへ糸を回し左前に引き、天びんの穴の奥まで糸をかけます。

❾



⓫



❾ 糸案内に右奥から糸をかけ、続いて針棒糸かけにも右奥から糸をかけます。

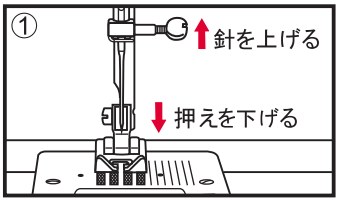
⑩ 針穴に前から後ろに糸を通します。

⓫ 余分な糸は糸切りでカットします。

◆ 糸通しの使い方

⚠ 注意：ケガ防止のために

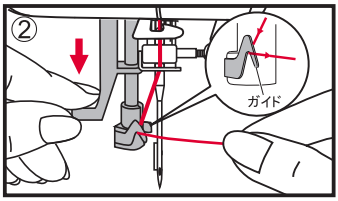
- 糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。
- ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。
  糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れ、ケガのもとになります。



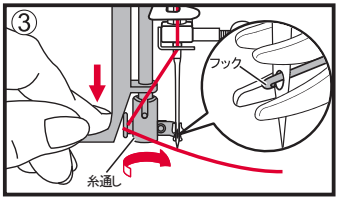
① 押え上げレバーを下げ、押えを下げます。

はずみ車を手前に回して、針上止点ラインを合わせ針を上げます。（13ページ参照）

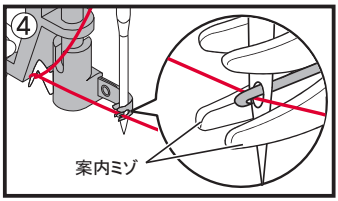
糸通しが使用できる針は、11番、14番、16番です。



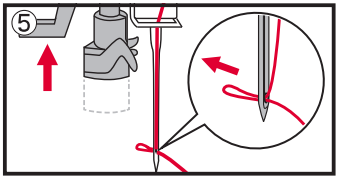
② 糸通しレバーを軽く下げ、糸を糸通しの左側にあるガイドにかけてから、右に引いていきます。



③ レバーを一番下までぎゅっと下げると、糸通しが回転し、針穴にフックが通ります。
針穴が正しい位置でないとフックが通りません。
必ず、①の通り、針上止点ラインを合わせて針位置を合わせてください。針穴にフックが通らないまま無理に押すと、フックが曲がり、針穴に通らなくなることがあります。

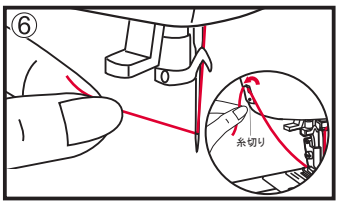


④ 糸を下の案内ミゾに沿わせるように中に入れ、フックの下にかけます。
針に沿うように近づけると、フックにかけやすくなります。



⑤ 糸はしを軽く持ったまま、レバーを放します。
※糸をギュッと持っていると糸が通らないので、軽く持つようにしてください。

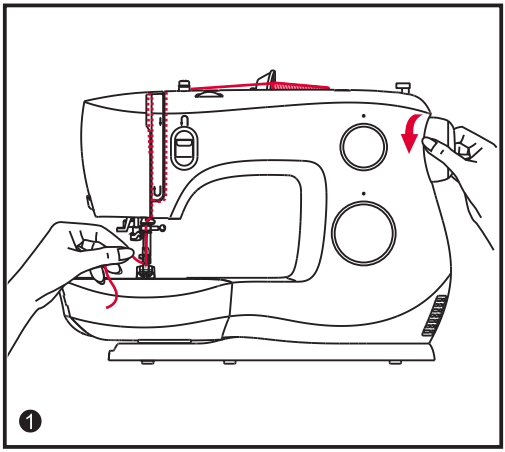
糸が輪になって針穴に通ります。
糸通しレバーは元の位置に戻ります。



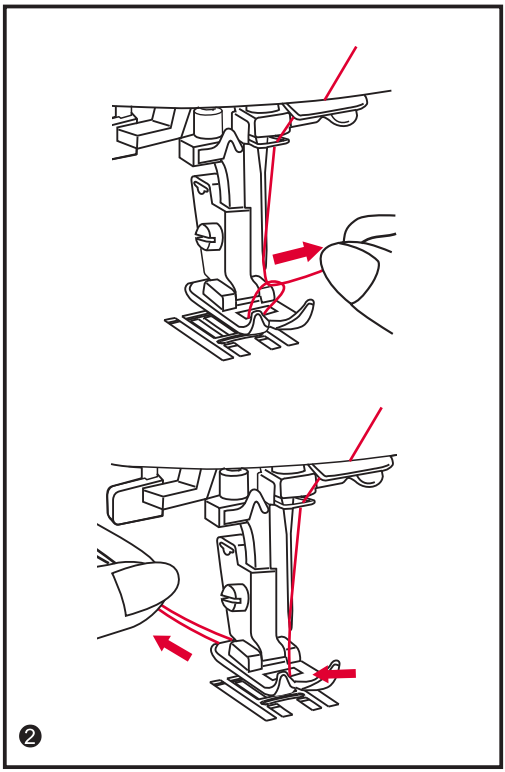
⑥ 糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。
余った糸はミシン本体左側面にある糸切りで切っておきます。

◆ 用途によって、下糸を引き上げ使用する際は次のように行います

このミシンは、下糸を引き上げなくてもぬうことができますが、下糸を長くとってぬい始めたいときは、下糸を引き上げておきます。 ※下糸セットの時の最後の糸切りはしないでください。



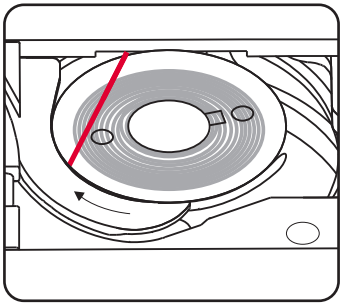
❶ 押え上げレバーを上に上げ、針に通した糸を左手で持ちます。
はずみ車を手前に回して、針をいったん針板の下に下ろし、その後上げます。



❷ 上糸を軽く引っ張ると、下糸が引き出されます。上糸と下糸をそろえ、押えの下から後ろ側に10cmくらい出しておきます。

＜正しくセットできたかを確認する方法＞

下糸を引き上げた後、ボビンを上から見ると左上に1本糸がかかった状態となります。
かかっていないと糸調子がとれず、きれいにぬえません。
もう一度下糸をセットし直してください。

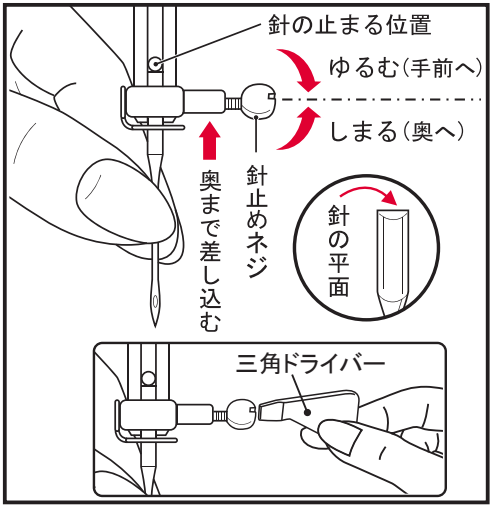


◆ 針の取り外し方と取り付け方

⚠ 注意：ケガ防止のために

- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 針は必ず家庭用ミシン針（HAx1）をご使用ください。
- 曲がった針や針先がつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 針は消耗品になります。急にぬい目がおかしくなったり、ぬっているときに、今までと違う音がした場合などは、針が傷んでいます。すぐに交換してください。

針は、布地や糸に合わせて選びます。37ページの「針と糸と布地の組み合わせ」を参照してください。



電源を切ります。

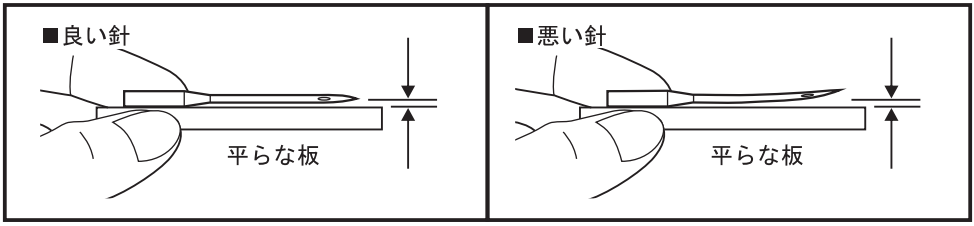
押え上げレバーを下に下げ、押えを下げます。

はずみ車を手前に回し、針を一番上に上げます。

針止めネジを三角ドライバーで手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。

新しい針の裏面（平らな面）を向こう側（針棒側）に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めネジを三角ドライバーで締め付けます。

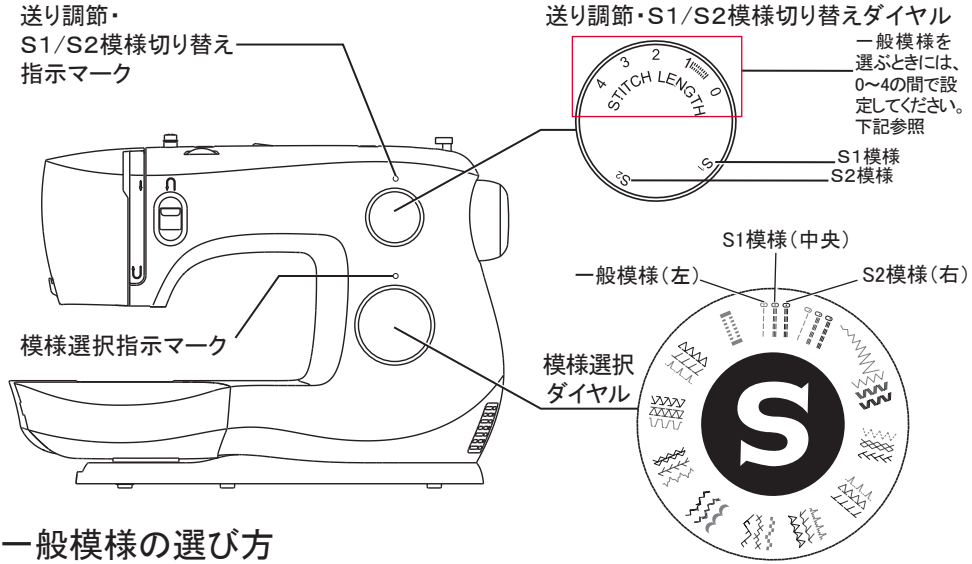
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



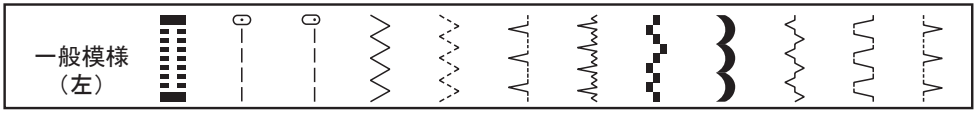
◆ 模様の選び方

⚠ 注意：ケガ防止のために

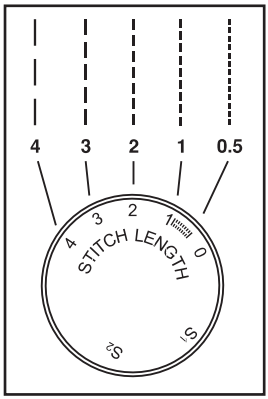
送り調節・S1／S2模様切り替えダイヤルや、模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を布地から上げてください。針が布地に刺さっている状態では、針が折れ、ケガをする原因となることがあります。



一般模様の選び方

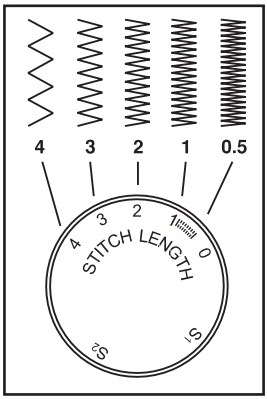


模様選択ダイヤル一般模様（左）の模様から、ぬいたい模様を選択します。
このとき、送り調節・S1/S2模様切り替えダイヤルが0〜4の数字の間にあることを必ず確認してください。 一般模様は、ぬい目の長さの調整ができます。



直線ぬいの場合

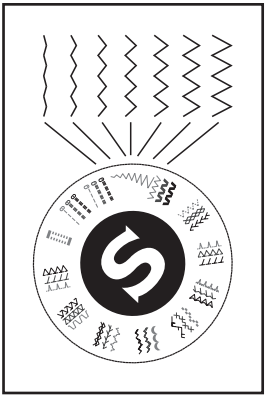
送り調節・S1/S2模様切り替えダイヤルで、ぬい目の長さを0.5〜4mmで調整できます。



ジグザグぬいの場合

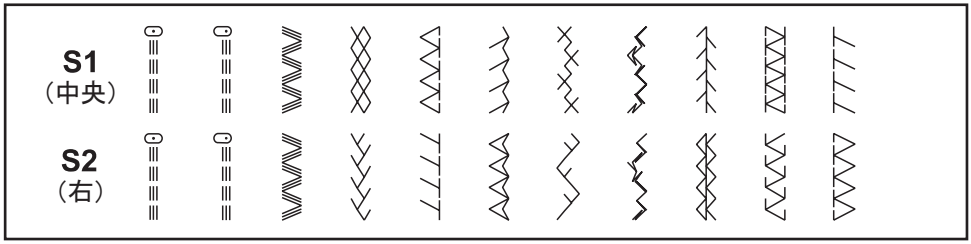
送り調節・S1/S2模様切り替えダイヤルで、ぬい密度を0.5〜4mmで調整できます。

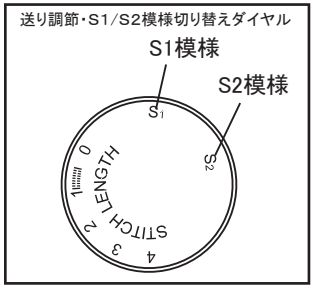
◆ 模様の選び方



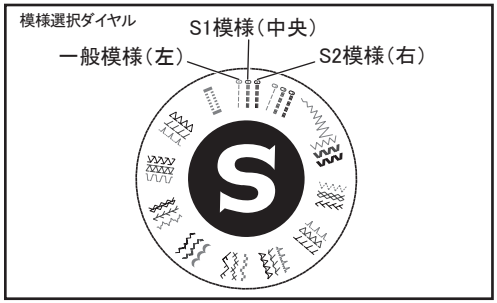
ジグザグ模様 は、模様選択ダイヤルの、” ”で、ふり幅が変更できます。

S1・S2模様の選び方





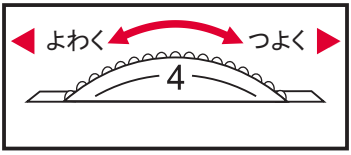
①ぬいたい模様が、S1（中央）もしくは、S2（右）かを確認し、送り調節・S1/S2模様切り替えダイヤルで、S1、S2を切り替えてください。



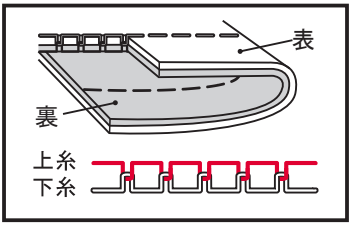
②模様選択ダイヤルで、希望の模様を選択してください。

※S1（中央）、S2（右）模様は、ぬい目の長さ、ふり幅は、変更できません。

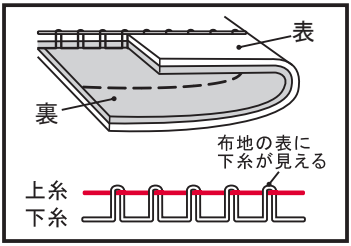
◆ 上糸調子の合わせ方



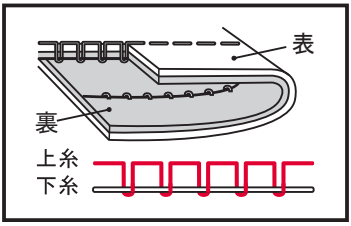
● 上糸調節ダイヤル
通常、上糸調節ダイヤルを「ー4ー」に合わせると、一般的な糸や布で糸調子が合うように調節されています。
糸調子は、上糸調節ダイヤルを回し調整します。
【糸調子を強くする】 ダイヤルの数字を大きくする
【糸調子を弱くする】 ダイヤルの数字を小さくする



● 正しく調節されている場合
左図のように、上糸と下糸が布の中間で交差し、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常なぬい目です。
布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せなどをするときは、下記のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。

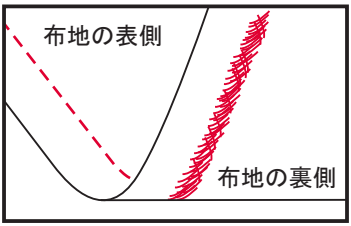


● 上糸が強い場合
布の表の糸が1本になっているときは、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。
または、上糸の糸調子が強いので、上糸調節ダイヤルの数字を小さくして糸調子を弱くしてください。



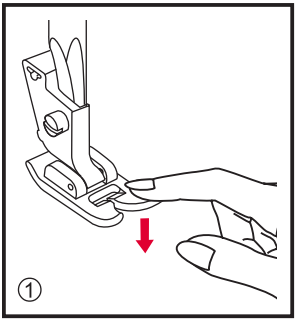
● 上糸が弱い場合
布の裏側の糸が1本になっていると時は、上糸の糸調子が弱いので、上糸調節ダイヤルの数字を大きくして糸調子を強くしてください。
ダイヤルを回しても糸調子が合わない場合には、上糸のかけ方が誤っている場合があります。
一度上糸を外し、「使用の手びき」をご確認いただき、正しくかけ直してください。

◆ 布地の裏側がタオル地のようになるのは



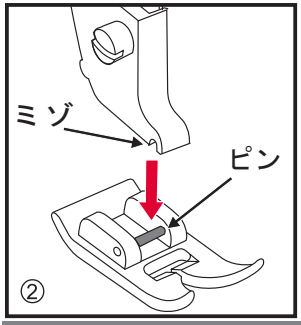
左図のように、布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のように糸が出ているのは、上糸をセットする際に、押え上げレバーを下げたまま糸かけをしてしまっていたり、上糸調子が弱い場合に起こる現象です。
「使用の手びき」をご確認いただき、正しく糸をかけ直してください。
上糸調子を調節する際は、上記をご確認ください。

◆ 押えの取り外し方と取り付け方



①押えの取り外し方

押え上げレバーを上げて、押えを上げます。
押えを下に押すと押えは外れます。

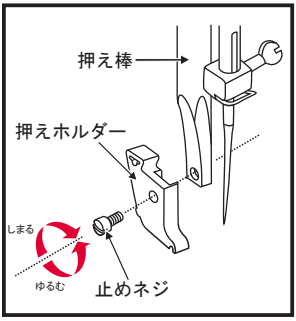


②押えの取り付け方

押えのピンが、押えホルダーのミゾの真下にくるようにして、
押え上げレバーを下げます。

ピンがミゾにうまく取り付かないときは、
押えホルダーの上から軽く押してください。

◆ 押えホルダーの取り外し方と取り付け方

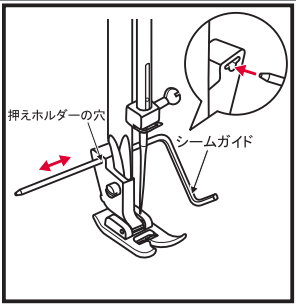


● 押えホルダーの取り外し方
押え上げレバーを上げ、押えを上げます。
押えを取り外し、三角ドライバーを使い、止めネジを奥に
回しゆるめて、押えホルダーを取り外します。

● 押えホルダーの取り付け方
押えホルダーのネジ穴と押え棒のネジ穴の高さを合わせ、
止めネジを取り付けます。
止めネジは三角ドライバーで手前に回して締め付けます。

※押えの交換は、押えホルダーは取り付けたまま行います。
取り外す必要はありません。

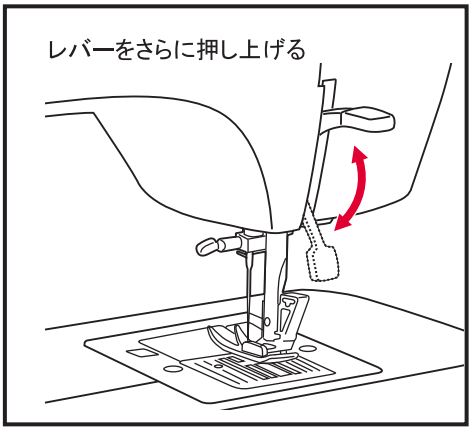
◆ シームガイドの取り付け方



シームガイドは、取り付けることで、平行のステッチや
均一なステッチをぬうためのガイドになります。

押えホルダー後ろ上部にある穴に右側から差し込み取り
付けます。
ガイドを左右させることで、ガイドとなるステッチ幅の変更が
できます。

◆ 押え上げレバー

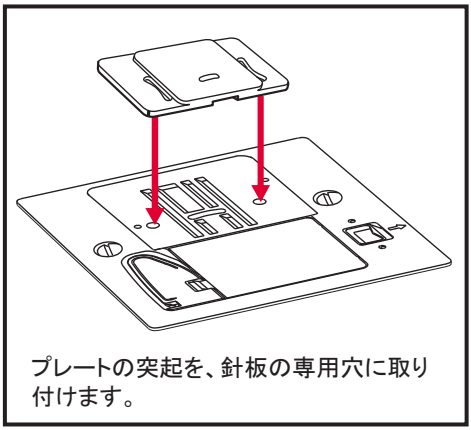


布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上にあげることができます。

※このとき、レバーは固定されません。

手を放すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。

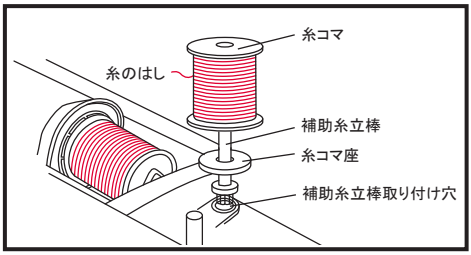
◆ 送りカバープレート



フリーハンドで刺しゅうぬいなどを行う際には、送り歯に送りカバープレートを取り付けます。送りカバープレートを取り付けている間は送り歯が効かなくなります。
布を送りませんので、布を自由に動かせます。
イラストを参照して、送りカバープレートをセットしてください。

通常のソーイングでは送りカバープレートは必ず取り外してください。

◆ 補助糸立棒の使い方

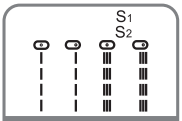


付属の補助糸立棒を使うと、ミシンに付いている糸立棒に糸コマをセットした状態のまま、別の糸コマで糸巻きができます。
補助糸立棒を使う時は、左図のように、補助糸立棒に、糸コマ座を差し込んでから、補助糸立棒取り付け穴(P10参照)に差し込んでください。下糸巻きの方法は、糸コマから糸を引き出し、P11①～⑥と同じ手順でボビンに下糸を巻きます。

◆ 直線ぬい

⚠ 注意：ケガ防止のために

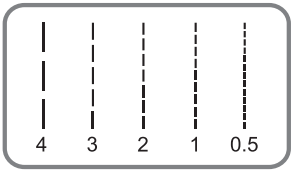
- 針先には十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって送られますので、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れ、ケガをする恐れがあります。



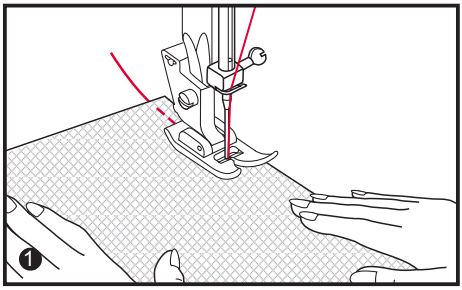
模様

ジグザグ押え

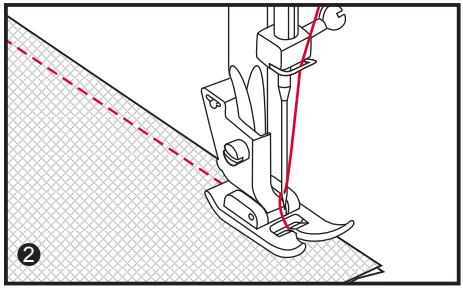
送り調節ダイヤル



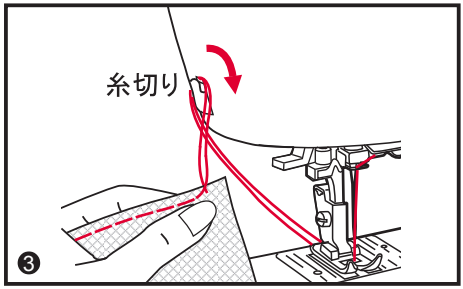
ぬい目の長さの調節は、送り調節ダイヤルで行います。（P18参照）
普通は目盛の2～4が標準ですが、布地の厚さや糸の太さ、ぬう目的などで変わります。
試しぬいをして調節してください。
※送り調節ダイヤルを「0」にセットすると、布は動かず、同じ場所を針が刺します。



❶ 布地を押えの下に置き、ぬい始める位置ではずみ車を手前に回し、針を刺してから、押え上げレバーを下げて押えを下ろします。フットコントローラーを足で踏み、スタートさせます。
布地に軽く手をそえます。ぬっている間は布地を無理に引っ張らないようにします。

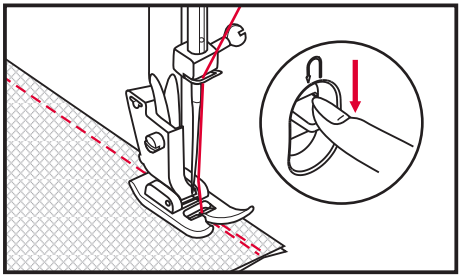


❷ ぬい終わったらフットコントローラーから足を放して、ストップします。
はずみ車を手前に回し、針を一番上に上げます。



❸ 押えを上に上げ、布地を取り出します。
ミシン本体左側面にある糸切りに糸をかけて手前に引くと糸が切れます。

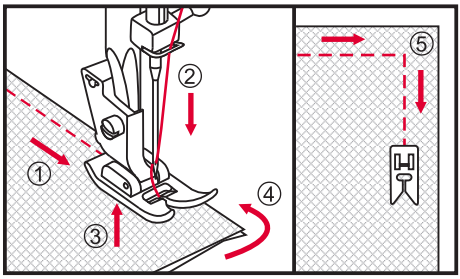
◆ 返しぬい



フットコントローラーを踏みながら、返しぬいレバーを押し下げます。押し下げている間は、返しぬいができます。
レバーを放すと前進に戻ります。

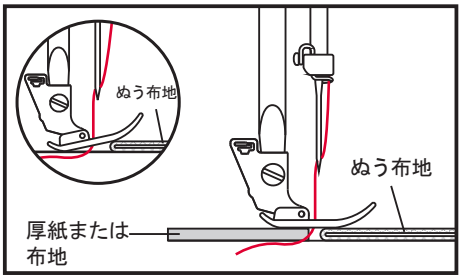
ぬい始めとぬい終わりに３～５針返しぬいをしておくと、ぬい目がほころびず、丈夫になります。

◆ ぬい方向のかえ方



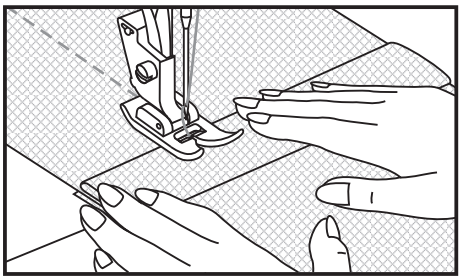
① 布地の角まで来たら、フットコントローラーから足を放します。
② はずみ車を手前に回し、針を下げ、布に刺します。
③ 押え上げレバーを上げ押えを上げます。
④ 針を軸にして布地を回し、布地をぬい方向にセットします。
⑤ 押えを下げて、ぬい始めます。

◆ 厚地のぬい始め



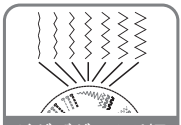
厚地の布はしからぬい始めるときに押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。
このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがい、段差をなくしてからぬい始めます。

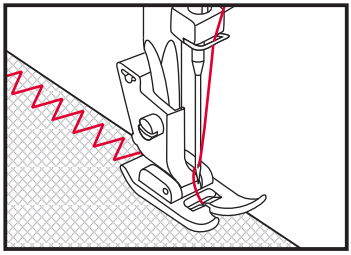
◆ 段ぬい



布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。

◆ ジグザグぬい

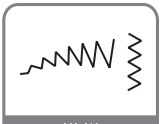


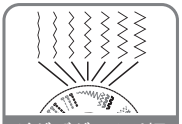


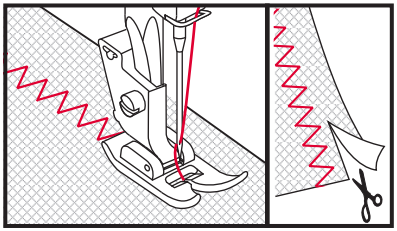
ジグザグぬいの糸調子は、直線ぬいに比べ、上糸をやや弱めにし、裏に上糸がでるくらいが適当です。

送り調節ダイヤルの目盛を「0」に近づけるにしたがい、密着したジグザグぬいになります。
布に応じて送り調節ダイヤルで、ぬい目の長さを調節してください。
調節方法はP18、19をご確認ください。

◆ たち目かがり

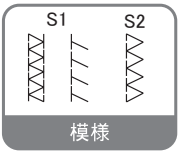






ぬい代に少し余分をとってぬい、ぬった後に、余分なところをぬい目の近くで切り落としてください。

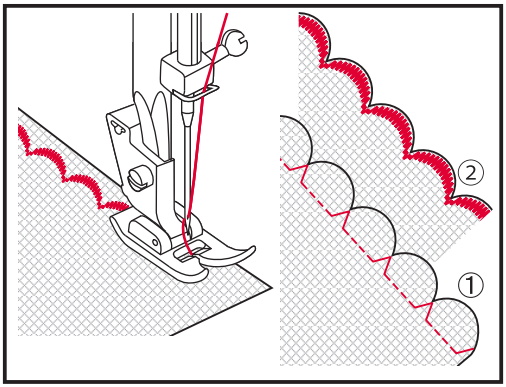
送り調節ダイヤルの目盛を「0」に近づけるにしたがい、密着したジグザグぬいになります。
布に応じて送り調節ダイヤルで、ぬい目の長さを調節してください。調節方法はP18、19をご確認ください。



中厚ものの布地のたち目かがりを行う場合、上記の模様が有効です。
※これらの模様は、ぬい目の長さは変更できません。

ジグザグぬいの場合と同じように、ぬい代に少し余分をとってぬい、ぬった後に、余分なところをぬい目の近くで切り落としてください。

◆ 飾りぬい



①シェルタック

布はしの飾りぬいに使います。薄手の伸縮性のある布に適しています。

模様選択ダイヤルは一般模様の ” ” にセットします。
針が右振れしたときに、生地のはしにくるように布地をセットしてください。

②スカラップぬい

布はしに沿って、デリケートな仕上げをしたいときに使います。

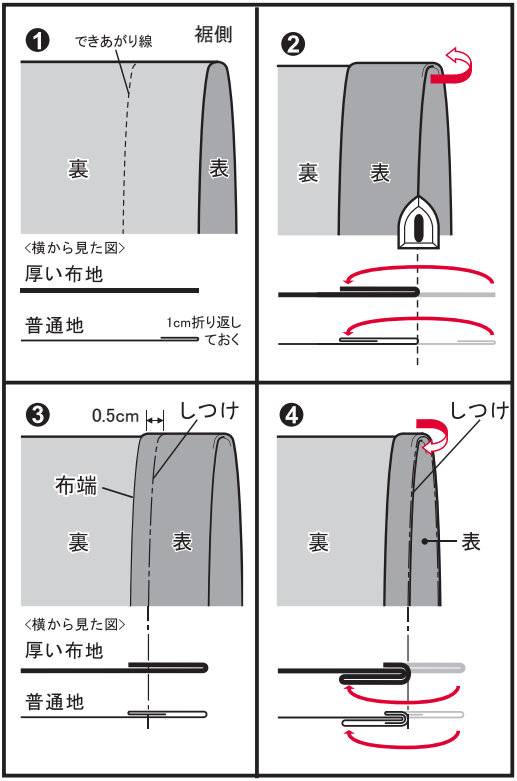
模様選択ダイヤルは一般模様の ” ” にセットします。

布の表から布はしを1cmくらい残してぬいます。
糸を切らないように、ぬい目の外側の布をぬい目にそって切り落とします。

◆ まつりぬい（ブラインドステッチ）

ズボンやスカートの裾、袖口のまつりに使います。

スカートやズボンの裾は、次の手順でまつります。



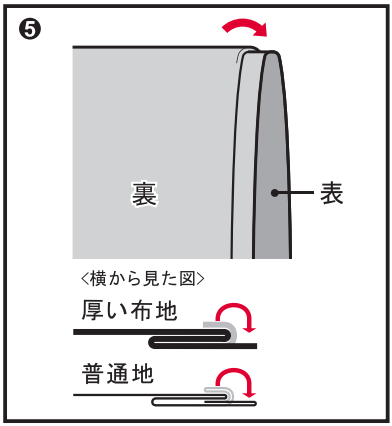
❶ 裾上げするスカートやズボンを裏返します。

❷ できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。

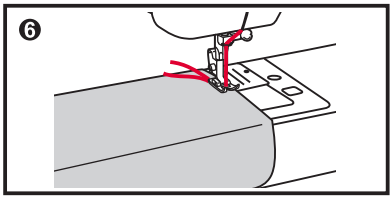
❸ 布はしから約0.5cmのところにチャコペンなどで印を付け、しつけをします。

❹ しつけをしたところから、内側へ折り込みます。

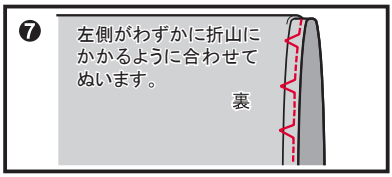
◆ まつりぬい（ブラインドステッチ）



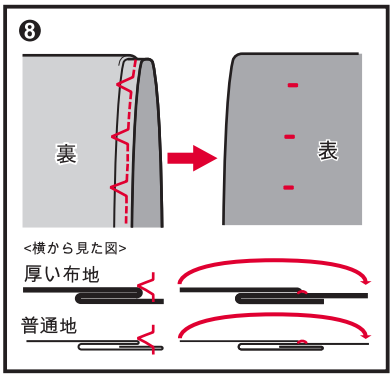
❺ 布はしを開きます。



❻ ミシンをフリーアームにし、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認してください。

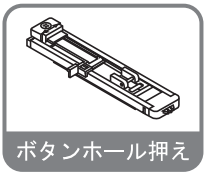


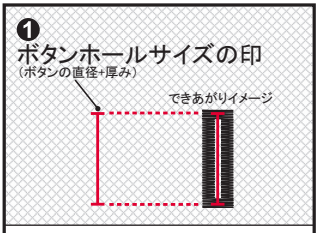
❼ はずみ車を回して針が最も左側にくるようにしておきます。その時に針が折山にわずかに刺さるように布の位置を合わせてぬいます。

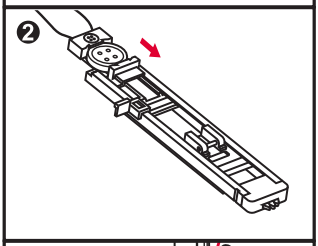


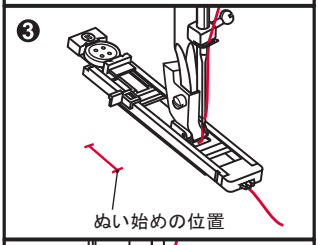
❽ しつけをほどき、布地を表に返します。

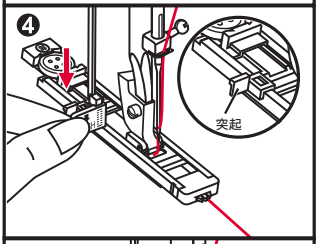
◆ ボタンホールのぬい方

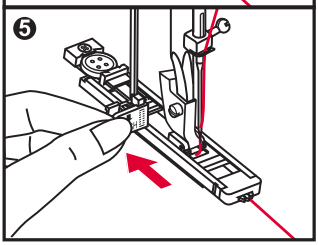












● 必ずぬうものと同じ生地（残り布）で試しぬいをしてからぬってください。

❶ ボタンホールをつくる位置にチャコペンなどで印を付けてください。
「ボタンの直径+厚み」が3cmまでのボタンホールができます。
送り調節ダイヤルを”▥”に合わせてぬいます。
布地によって、ぬい目の長さの調節が必要です。

❷ ボタンホール押えの後ろを引き、開いた部分にボタンを乗せ、はさみます。
通常ついている押えを取り外し、ボタンホール押えを取り付けます。

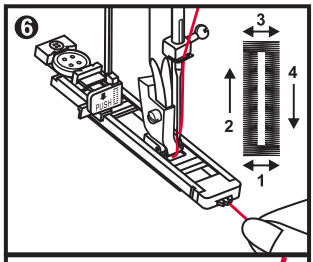
❸ 布を入れ、ぬい始めの位置に針を刺して、押えを下げてください。糸は押えの下に通し、手前に出しておいてください。

❹ ボタンホールレバーを図の突起部の手前に、止まるまで下げます。

❺ ボタンホールレバーを後ろに止まるまで軽く押します。

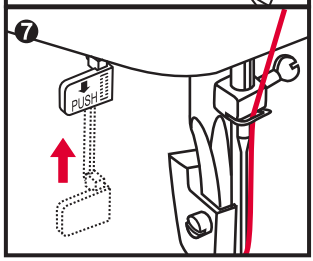
※ボタンホールをつくる度に、スタートの前に必ず後ろへ押してください。

◆ ボタンホールのぬい方

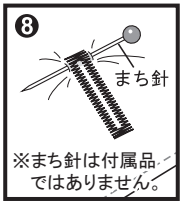


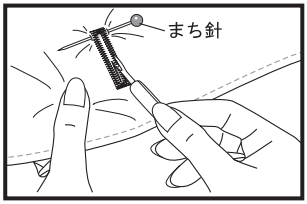
❻ 上糸を軽く持ち、ぬい始めてください。ぬい始めたら手を放してください。ぬい終わったらミシンを止めます。

手は布地に軽くそえてください。
ボタンホールは、図中1～4の順序で自動的にぬいます。



❼ ぬい終わったら、ボタンホールレバーを引き上げて、元の位置に戻します。





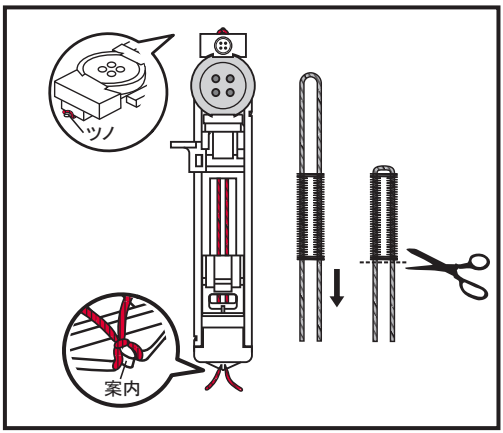
❽ 付属のリッパーでボタンホールを切り開きます。

※ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺してから開きます。

※まち針は付属品ではありません。

⚠ 注意：ケガ防止のために

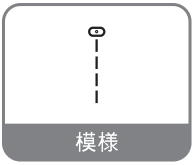
リッパーで穴を開けるとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。
すべったときにケガをする恐れがあります。

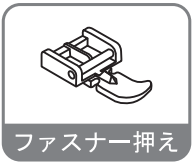


＜芯入りボタンホールの作り方＞

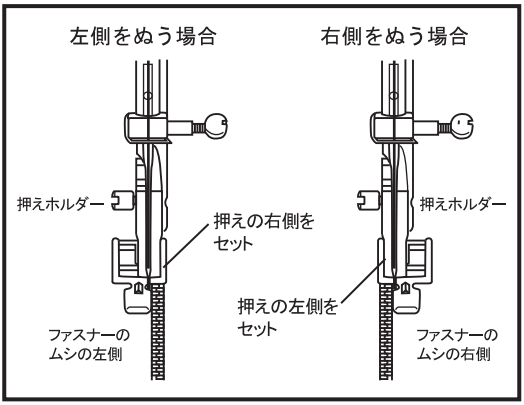
- 伸びる布地にボタンホールをぬうときは、ボタンホールに芯ひもを入れると丈夫になります。
- 芯ひもの輪を押えの後ろ側にあるツノにかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し、前側の案内にはさみ結びます。
- 通常のボタンホールと同じ手順でボタンホールを作ります。
- ボタンホールができたら、左側の芯ひもを引いてたるみをなくし、余分な芯ひもを切ります。

◆ ファスナー付け





ファスナー押えをご使用の際は、必ず直線（中基線）のみご使用ください。
他の模様では、針が押えに当たって折れて危険です。



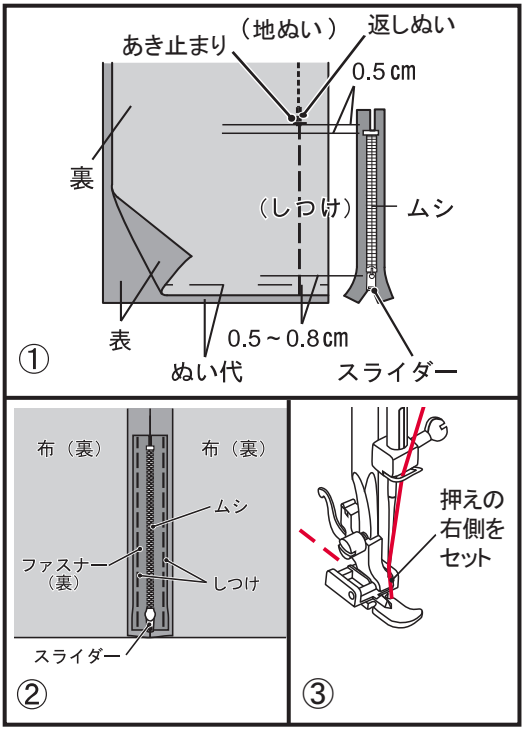
ファスナー押えは、ファスナーの左右どちらをぬうかで、セットする方法が違います。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側を押えホルダーに取り付けます。

ファスナーの右側をぬうときは、押えの左側を押えホルダーに取り付けます。

ファスナーの付け方には「つきあわせ」「脇あき」の方法があります。

●つきあわせ



●つきあわせ

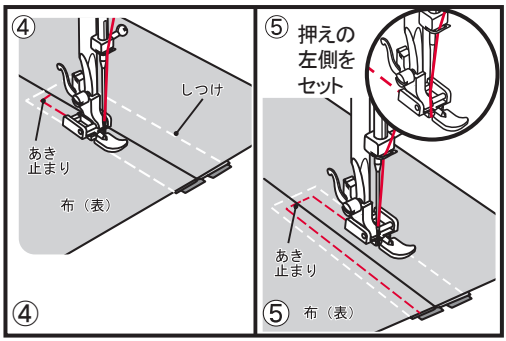
① 中表にして布を合わせ、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分はしつけをします。

※数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

② ぬい代をわり、ぬい目にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。
しつけはほどきやすいよう粗めでぬいます。

③ 次にファスナーのムシの左側をぬいます。ファスナー押えの右側を押えホルダーに取り付けます。

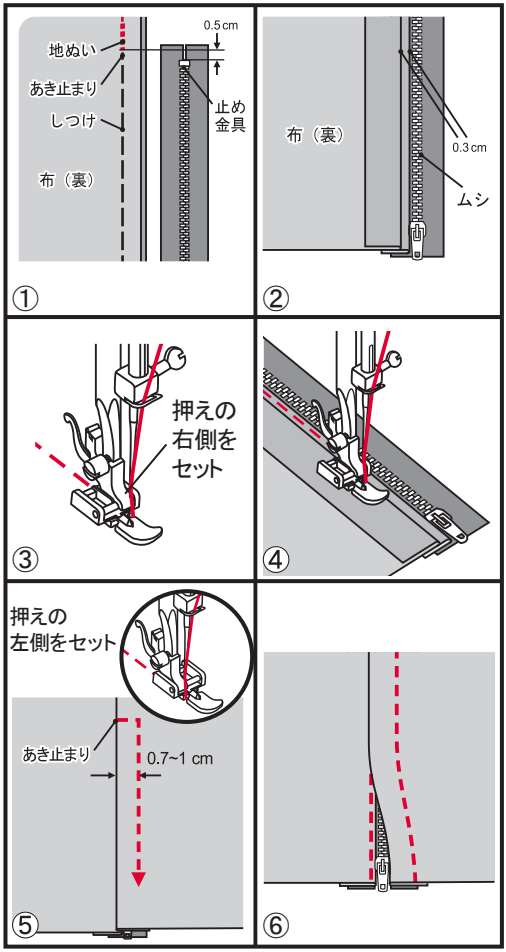
◆ ファスナー付け



④ファスナー左側を、布の合わせ目から0.7〜1ｃｍ離して、あき止まりからぬいます。

⑤ファスナー押えのミゾを左側にセットし、あき止まりの右側もぬい、しつけをとります。右側も同様に布の合わせ目から0.7〜1ｃｍ離してぬいます。

● 脇あき



● 脇あき

①中表にして布を合わせ、図の様にあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

②ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3ｃｍ出して折り目を付け、折り山をムシに合わせます。

※数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

③ 次にファスナーのムシの左側をぬいます。ファスナー押えの右側を押えホルダーに取り付けます。

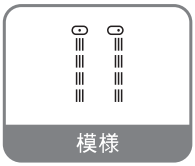
④ ファスナーの左側を、あき止まりからぬいます。押えがファスナーのムシに乗らないようにしてぬいます。

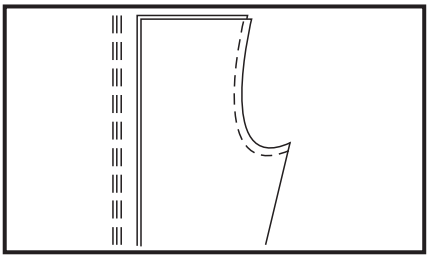
⑤ファスナー押えのミゾを左側にセットし、上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。右側の布の折り目から、0.7〜1ｃｍ離してぬいます。

⑥スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

◆ 伸縮強化ぬい

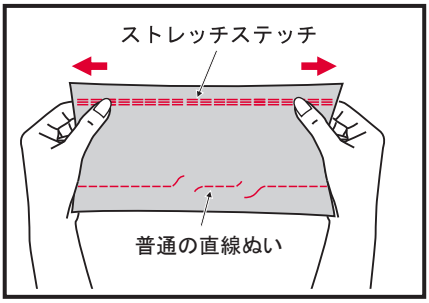
直線とジグザグの三重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分や、デニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。

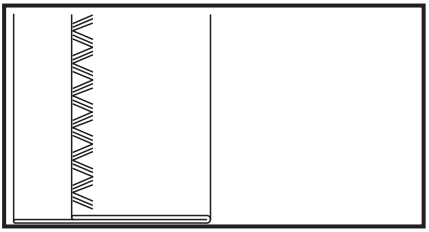




● トリプルステッチ（三重ぬい）
中基線・右基線

※ぬい目の長さやふり幅などは調節できません。





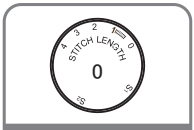
● 三重ジグザグぬい

※ぬい目の長さやふり幅などは調節できません。

◆ ボタン付け

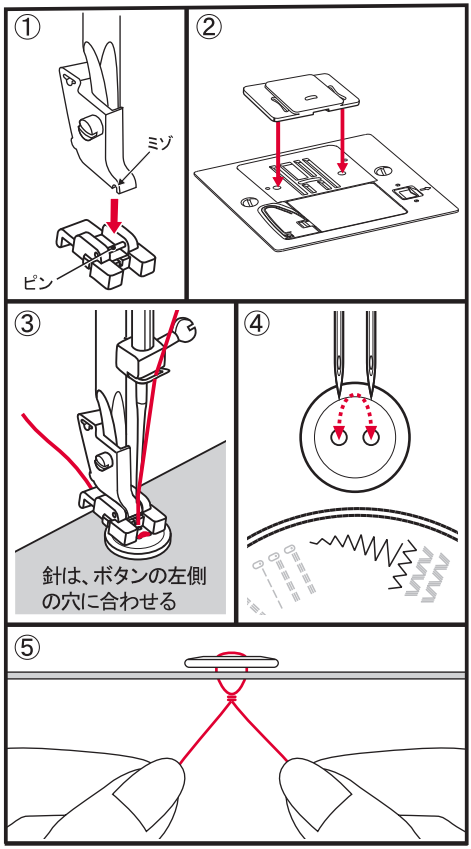
模様

ジグザグ押え



送り調節ダイヤル

● 送り調節ダイヤルは「0」にします。



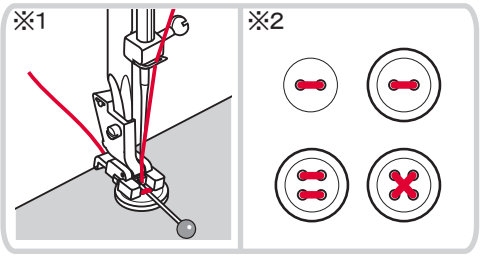
① ボタン付け押えに付け替えます。

② 送り歯に送りカバープレートを取り付けます。（P22参照）

③ はずみ車を手前に回して、針が左に来たときに、ボタンの左の穴に下りるようにして押えを下げます。

④ ボタンの左右の穴の中心に針が落ちるように模様選択ダイヤルのジグザグ幅を調節してからぬい始めます。

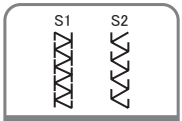
⑤ 針と押えを上げ、ミシン左側の糸切りで糸を切ります。
布をひっくり返し、ぬい終わりの下糸を引いて上糸を裏側に出し、上糸と下糸を結びます。



※1
付けるボタンに糸の余裕をもたせたいときは、ボタンの上にまち針をのせてぬいます。
※まち針は付属品ではありません。

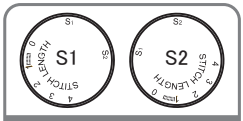
※2
4つの穴を持ったボタンについては、先に2つの穴をぬい、それから残りの2つの穴をぬいます。

◆ ファゴティング

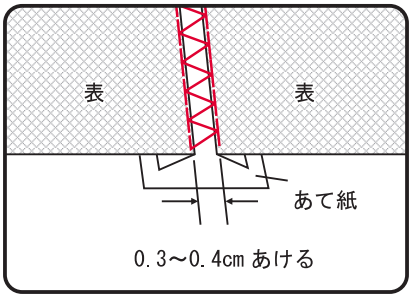


模様

ジグザグ押え



S1/S2模様切り替えダイヤル



① 布はしと布はしの間隔を0.3〜0.4cmあけて、裏にあて紙をします。

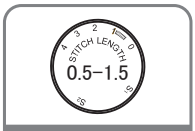
② 布の表から、間隔の中央を中心にしてぬいます。

③ あて紙を取ります。

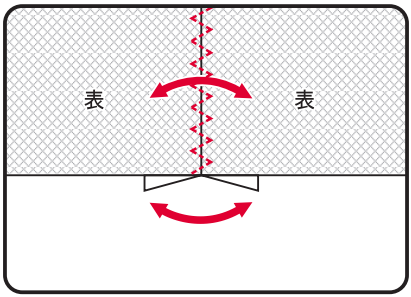
◆ パッチワーク

模様

ジグザグ押え



送り調節ダイヤル



● 布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。

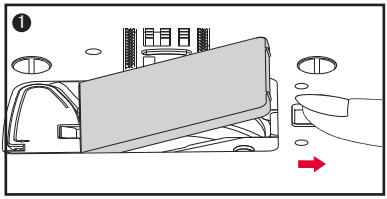
布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

◆ ミシンのお手入れ

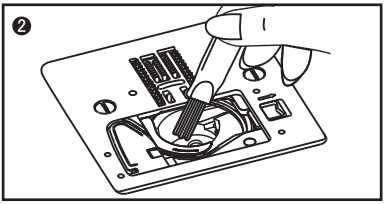
⚠ 注意：ケガ防止のために

お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

● 内カマと送り歯の掃除

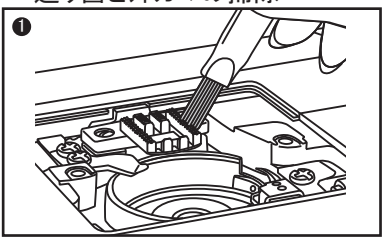


カマカバーを外して、ボビンを取り出します。

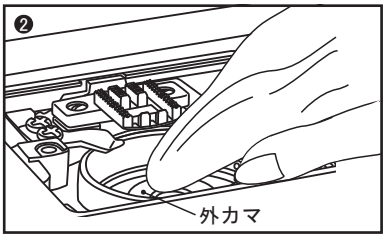


ブラシで内カマの糸クズやほこりを掃除します。

● 送り歯と外カマの掃除

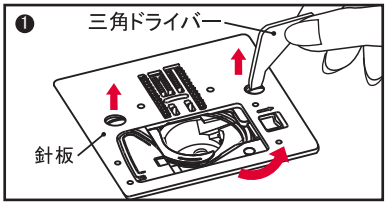


ブラシで送り歯の糸クズやほこりを掃除します。

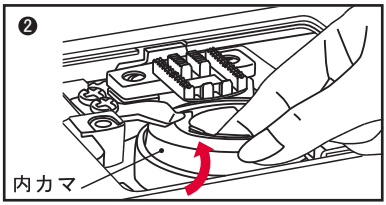


やわらかい布などで、外カマを軽くふきます。

● カマの分解

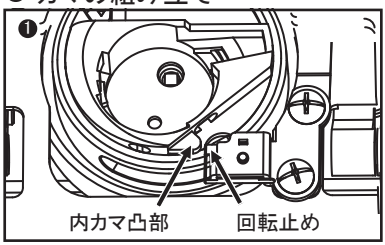


針板の止めネジ(2ヶ所) を付属の三角ドライバーで左回りに回して外し、針板を取り外します。

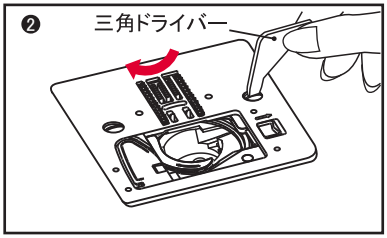


内カマの手前を上に引き上げながら取り外します。

● カマの組み立て



内カマを奥の送り歯などの下に差し込み、手前の内カマ凸部を回転止めの左側に納めます。



針板を本体に取り付け、ネジ(2ヶ所)を三角ドライバーで右回りに締めます。

◆ LED ライトの交換

ミシンに装備されているＬＥＤライトは非常に長持ちなので、通常交換の必要はありません。もし万が一、交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

◆ 布地に適した針と糸の選び方

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。この表を目安に、布地にあった針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※必ずミシン専用の糸をご使用ください。

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガンジー、ボイル、絹布など。	スパン系糸 90 （ポリエステル） 綿 80～100 絹 60～80	9～11 番
普通地	ギンガム、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄手コーデュロイ、別珍、一般服地など。	スパン系糸 60 （ポリエステル） 綿 50～80 絹 50	11～14 番
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイ、ジーンズなど。	スパン系糸 60 （ポリエステル） 綿 40～50 絹 50	14～16 番
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	スパン系糸 60 （ポリエステル） レジロン系糸 50	11～14 番 ニット用針

・糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
・ニット用針は伸縮性のある布地や目飛びしやすい布地に使用します。
・購入時は、１４番の針がミシンに取り付けられています。

※綿や絹の糸は、経年劣化により切れやすくなります。
　なるべく新しい糸をお使いください。（目安として製造より２年）

※ナイロン透明糸およびメタリック糸、また手ぬい用の糸（キルト糸）などは
　使用しないでください。

＜オススメ＞
スパン系（素材：ポリエステル）の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、
また長持ちします。

◆ 困ったときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてください。

※ 糸調子が合わない原因は、糸かけやボビンのセットが誤っていることがほとんどです。
　いったん、上下糸を取り外し、正しくセットし直してください。参照ページ P10〜15

不調の状態	原因	処置	参照ページ
ミシンが動かない	電源が入っていないとき。	電源を入れます。	8
	下糸巻き軸が右へ押されているとき。	左へ戻します。	11
	カマに糸やゴミがたまっているとき。	糸やゴミを取りのぞきます。	36
布地が縮む	上下糸のかけ方が間違っていたり、余分な箇所に糸が引っかかっているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	10 〜 15
	上糸の調子が強すぎるとき。	適正な強さに調整します。	20
	布地に対してぬい目の長さが長すぎるとき。	適正な長さに調整します。	23 〜 35
	布地に対して糸と針が合っていないとき。	「布地に適した針と糸の選び方」を参考に正しいものに交換してください。	37
ぬい目に輪ができる	上下糸の糸調子が合っていないとき。	適正な糸調子に調整します。	20
	押え上げレバーを下げたまま、上糸をかけてしまったとき。	押え上げレバーを上げて、上糸をかけ直します。	13 〜 15
針が折れる	細い針で厚地をぬったり、細い針に太い糸を使ったとき。	布地に合った針や糸を使います。	37
	針の取り付け方が悪かったり、曲がった針を使用したとき。	正しく付け直します。	17
	布地を無理に引っ張ったとき。	手は布地にそえるだけにします。	23
	針が正しく取り付けられていないとき。	針を正しく取り付けます。	17
	模様に対して正しい押えが取り付けられていないとき。	模様に合った押えを取り付けます。	23 〜 35
布を送らない	ぬい目の長さが布地に合っていない。	ぬい目の長さを調整します。	19 23～35
	針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	新しい針に取り替えます。	17
	針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	37

◆ 困ったときには

不調の状態	原因	処置	参照ページ
ぬい目が飛ぶ	上下糸のかけ方が違っているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	10～15
	針が正しく取り付けられていないとき。	正しく付け直します。	17
	針板の下に糸くずがからまっているとき。	糸やゴミを取りのぞきます。	36
	針と布や糸の素材が合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	37
	上下糸のかけ方が違っているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	10～15
上糸が切れる	針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	新しい針に取り替えます。	17
	針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	37
	上糸の調子が強すぎるとき。	上下糸を正しくかけ直します。	10～15
	針の取り付け方が違っているとき。	正しく付け直します。	17
	糸が必要以外のところにからみついているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	10～15
	ご使用の糸が古いとき。	新しい糸に替えます。	37
下糸が切れる	ボビンのセット方法が間違っているとき。	正しくセットし直します。	12
	カマの中で下糸がからみあっているとき。	からんだ糸を取り除き、内カマと送り歯の掃除をします。	36
ボビンに糸が巻けない	ボビンが下糸巻き軸に完全に差し込まれていないとき。	完全に差し込みます。	11
布の裏で糸がからまる	上下糸が正しくかかっていないとき。	上下糸を正しくかけ直します。	10～15

この項に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店におたずねください。

◆ 修理サービス要領

● 修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から１年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

● 修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常８年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

● 無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。

   ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。

   イ．保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
   ロ．浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
   ハ．ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
   ニ．ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
   ホ．職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
4. このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

１６０年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

株式会社ハッピージャパン
〒110-0016　東京都台東区台東2丁目9番5号
TEL.03-3837-1865
（本社）〒990-2251　山形県山形市立谷川3丁目3515

021Q4G0401-02